

『北阪昌人のラジオドラマ脚本入門セミナー』 レジюме

2. セリフ講座①

(テキスト P 17～p 26)

「サ行はあなどれない」

音に敏感になりましょう。たとえば、名前。

郷田権蔵（ごうだ・ごんぞう）という名前の音から連想される人物の顔は、

おそらく、顔が四角く、髭が生えていて、目はぎょろっとしているのでは

ないでしょうか？

桐谷俊介（きりや・しゅんすけ）という名前の音から連想される人物の顔は、

おそらく、しゅっとしたアゴのライン、目は切れ長で、髪はさらさら。

実際に、多くのひとに似顔絵を描いてもらうとほぼ間違いなく、そんなイメージ

になります。私たちは、音に影響され、ある意味、操作されているのです。

主人公の名前に、濁音があるかないかは、大きな要素。そしてもうひとつ大事な

のが、「サ行」です。さしすせそが、入ると途端にナイーブな印象を与えます。

日本人は、「サ行」が大好きです。

(e x. しずかさや いわにしみいる せみのこえ)

音を意識すれば、セリフづくりがうまくなります。